

## 県NSH合同発表会が行われました！

1月28日(火)

### ●1年間の研究の成果を、他校の同級生や先生方に見ていただきました！

年間を通して行われてきた研究の成果を、代表1チーム(国語班「和歌は廃れるのか」)がパワーポイントソフトを用いたスライド発表、7チームがポスターによる口頭発表を行いました。この地場産業センターには、NSHに指定されている5校に加えゲスト校として翠星高校が参加しており、それぞれが独自の研究を持ち寄りました。

#### 本校8チームのテーマ一覧

- 英語1班「日本人とアメリカ人の恋愛観の違い」
- 英語2班「英語における表現のちがいと「カタカナ英語」の改善法」
- 英語3班「大学での第2外国語におすすめの言語とは？」
- 国語1班「日本の文字の変遷」
- 国語2班「和歌は廃れてしまうのか」
- 地歴公民1班「私達が考えるキャッシュレスの未来」
- 地歴公民2班「北陸新幹線は必要か」
- 地歴公民3班「高校生の住みたいまち」

### ●代表チームは、大きなホールで発表です。大勢の生徒や先生が見つめる中、笑顔も交えながら発表をすることができました！

代表チーム「和歌は廃れるのか」の発表では、他校の生徒から多くの質問をいただきました。特に和歌を投稿し共有することができるサイトやアプリに興味を持ってもらえたようで、発表をした生徒たちは嬉しそうにシステムやその内容について答えていました。多くの書物やサイトにあたり、しっかりと研究してきたことがうかがえた発表でした。発表を終えた後の生徒たちの表情は、安心と達成感にあふれていたように思います。



### ●ポスター発表には7チームが参加し、訪れた他校の生徒や先生方に研究を発表しました。質疑応答にも、誠意を持って答えました！

大ホールには他校のポスターもたくさんあります。聞き手が興味のあるポスターを選んで聞きに行くというシステムのため生徒は不安げな表情でしたが、いざ発表を始めると物怖じすることなく堂々と研究の成果を伝えていました。特に質疑応答では、今まで気付かなかったような鋭い質問が飛んできた班もありましたが、自分たちが今まで分析し考えてきた頭の中の蓄積を使って、一生懸命に対応していました。生徒にとって、非常に大きな刺激になりました。



### ●各班班長の感想

- ・他校の発表を聞き、フィールドワークの大切さを感じた。ずっと机にいるのではなく、外に出ていく行動力は大切である。実現させるにはどうするか、というところまで研究を持って行く必要性を感じた。
- ・他校の研究はすぐに使える実用的なものが多かった。自分達ができることを考え、そこからスタートして研究していく必要があるのではと思った。
- ・他校は質問の受け答えがすぐに出ていて、自分たちがしてきた研究に対し深い理解があるのだと感じた。
- ・知識だけにとどまらず、実際の生活に役立つような研究が他校に多かった。自分たちの研究も、社会に活かせる何かを提示できればよかった。
- ・自分たちの質問への対応が不十分だと感じた。発表で話した内容と同じことだけしか話せず、悔いが残った。
- ・ポスター発表をしてみて、他校の同級生が自分たちの発表から刺激を受けたと聞いて感動した。自分たちの思いを伝えることができてよかったと思った。
- ・自分たちと同じ年代の高校生の発表を聞いて、調べ学習→分析・考察でとどまらず、行動にまで移していたことに刺激を受けた。同じ石川県で、同じような環境で育てている同級生だからこそ、余計にすごいと感じた。次の機会があれば、ぜひ自分たちもやってみたい。
- ・文系の研究という時点で幅広さは出ないと思ったりもしたが、他校の研究を見て、いろんなアプローチの仕方を知った。大学の研究にそのやり方を活かしていきたい。
- ・全部英語で発表することが非常に貴重な経験となった。英語で考え、英語で発表し、英語で質疑応答するというのが、自分にとってとても大切な経験だと思う。
- ・まずは緊張した。けれどもとても楽しかった。自分達の発表を他校の同級生たちがしっかり聞いてくれ、同じ熱量で意見交流ができたことが非常に有意義だった。
- ・文系の研究は、文献にあたりアンケートをとったりなど進めるのが難しいイメージだったが、他校の研究を見て自分達が思いつかないような発想がたくさんあって驚いた。大人になってからも役立つような内容をたくさん聞いてよかった。

### ★「人文科学コース」今後の予定★

◎3月23日(月)文化発表会(小松市公会堂)